

経験を学びに変える教育と能力開発

■講師



日向野 幹也(早稲田大学 大学総合研究センター 教授)

1978年東京大学経済学部卒業、1983年同大学院社会科学研究科経済政策専攻博士課程単位取得退学、1984年経済学博士(東京大学)。1984-2005年東京都立大学経済学部勤務(講師、助教授、教授)。2005-2016年立教大学教授、2006年経営学部 BLP を立ち上げ拡充(主査)。2013年全学 GLP 立ち上げ(主査)。アクティブ・ラーニングとリーダーシップ教育の模範事例としてとりあげられる。2016年より早稲田大学でも正課リーダーシップ教育開始。



村山 孝道(京都文教大学 教務課 課長、大学コンソーシアム京都 SD 研修委員会委員長)

1993年3月大正大学仏教学部卒。2016年3月同志社大学にて修士(総合政策科学)取得。2016年3月より同大学院総合政策科学研究科技術・革新的経営専(一貫性博士課程)3年次転入、在学中。研究領域は大学職員の HRM(人的資源管理)論。2016年4月より、大学コンソーシアム京都 SD 研修委員会委員長。大学職員「人間ネットワーク」副会長。2009年より学生 FD 活動に従事。「大学を変える、学生が変わる」(ナカニシヤ出版)を共著。



村田 晋也(愛媛大学 教育・学生支援機構 講師、大学間連携共同教育推進事業 UNGL 事業推進責任者)

平成24年3月九州大学大学院経済学府博士後期課程満期退学。平成22年4月より九州国際大学経済学部助教、平成26年より愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室講師。同年より大学間共同教育推進事業「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム(UNGL)」事業推進責任者として、国内外での実践的な研修を通じて学生の能力開発支援(主にリーダーシップ養成)に取り組んでいる。愛媛大学リーダーズ・スクール(ELS)責任担当教員。専門は、組織論、人的資源管理、リーダーシップ論。

コーディネーター: 小林 直人(愛媛大学 学長特別補佐、教育・学生支援機構教育企画室長、医学部総合医学教育センター長、教授)

■プログラム概要

これまで、企業等における人的資源開発の分野では、経験や体験を学びに変える人材育成手法の効果性に広く注意が向けられてきました。また、この体験学習の手法は、学校教育においても以前から用いられてきました。とくに近年では、就職に先立ち、実社会で有用となる実践的な知識や能力を大学在学中に体得しておくよう求められていること等を背景に、大学においても様々な経験をし、そこで得た気づきを学びに変えること、またそうする力を会得することが学生に期待されています。他方で、「経験を学びに変える」と一口で言っても、その実際は多種多様であり、実践に際しては程度や効果性を考慮しつつ、適切なものを選択的に用いる必要があることも事実です。

そこで、本シンポジウムでは、「経験を学びに変える教育と能力開発」というテーマを設け、これに取り組む大学や大学間連携事業の事例を考慮しつつ、大きく次の2つのアプローチからその現状と課題を共有することを目的とします。すなわち、(1)どのように学生の経験を主体的な学びに変えることができるか、(2)学生の学びを支援する教職員にはどのような能力開発が求められるかという2点です。具体的には、「学生の経験を学びに変えるための工夫」「経験をベースにした学習を進めていく上での課題と注意点」「経験を学びに変えるためにリフレクションをどのように用いるか」「教職員自身はどのように自分の経験を学びに変えることができるか」等の論点を検討することで、参加者諸氏の役に立つ情報の提供を目指します。なお、当日は3名のシンポジストによる実践事例の報告、その後、質疑応答及びパネル・ディスカッションを行う予定です。

■主な受講対象

教員、職員、その他 SPOD フォーラム 2016 に参加される全ての方のご出席を歓迎いたします。

■本プログラムの到達目標

1. 学生の経験を学びに変える工夫・手法・注意点について、事例を交えて紹介できる。
2. 学生の学びを支援する教職員にはどのような能力が求められるかを説明できる。
3. 学生の主体的な学びを促進する教職員能力開発のアイデアについて説明できる。

■日時・会場

日時: 平成28年8月25日(木) 15:30~17:45

会場: 愛媛大学城北キャンパス